

ずいそう

仕事感

牛久保 武彦



「社会人」と言われ始めてから31年が経ち当然のことではあるが自分の考え方が変わってきている。「公私」「仕事・遊び」さまざまな面で自分に色々な事を教えてもらった人・出来事がある。今回は「ずいそう」という事なので仕事上で印象に残っている事を筆のおもむくまま書いてみようと思う。

昭和56年に人生の転機が訪れた、何のことはない「学生」から「社会人」になっただけの事である。しかし自分にとっては想像を超える社会であった。建設業という職種であるからであろうか、現場で年上の作業員の方たちに指示を出す、当然上司に言われた事を伝えるだけであったがそれで良いと思っていた。そんな時に一緒に仕事をした下請けの会社の社長から「自分で出来ない事、やった事が無い事を口先でやらせるのではなく、自分で経験して仕事の厳しさを覚えなさい」と言われ、スコップの持ち方から型枠作り、重機の操作までいろいろ教えて頂きました。型枠を作った時など失敗ばかりで何度作ったものを壊したかわかりません。今の若い方たちが同じような経験を積んだ方が良いのかはわかりませんが私にとっては仕事の厳しさを知り仕事への自信につながった事は確かです。

社会人になり2年目の時のことですが、〇〇建設さんと一緒に仕事をする機会がありその所長さんが非常に時間に厳しい方でした。時間に厳しいというよりは私の仕事は何なのかを教えて頂いた方だと思っています。当時自分の段取りミスで仕事がストップしてしまったり、ストップしたと言ってもほんの10分か15分程度だったと思います。その時はそれほど失敗したとは思いませんでした。そう思っている事がわかった時に所長さんから「君は自分がしなければいけない仕事をしていない」と言われました。「君の仕事は時間にロスが出ないように準備をし、段取りを組まなければならない。1日に15分のロスが出れば一年で10日以上無駄にする事になる、もっと時間を大切にしてください」大げさなことかもしれませんが私にとっては今でも忘れられない出来事であり、その後現場に出た時に時間に厳しくなるあまりに「非常に気が短い人間だ」と言われていたのかもしれませんが。

「若い時の苦労は買ってでもしろ」今にして思えば仕事に対する取り組み方の基本は入社後数年で出来てきたのかもしれませんが。これから社会に出ていく人たちには大変なことかもしれませんが、最初の数年間はとことん苦労をし、それを乗り越えてほしいと思います。

仕事上の話とは少し違うかもしれませんがこんな事がありました。10年程前になりますが仕事上のお付き合いで仲よくしていただいた方がいました。非常に日本酒が好きで仕事が終わっては飲みに行っていました。ある年、体を壊し、入院し手術をしないと余命3カ月と言われたのですが、酒も飲めず仕事に復帰できるかもわからないのであれば手術はしない、最後に今まで付き合った人たちと飲みに行くと言い、亡くなる2カ月前に私と飲みに行く機会を作りました。その時「自分なりにやりたい事もやったし世話になった人たちに最後の挨拶をするんだ」と明るい調子で話をしていました。

私は凄い事だと思うと同時に人はいつ亡くなるのか分からない、仕事も遊びも今できる事を精一杯やり「やらなかった」という悔いだけは残さないようにしようと思いました。

その時に思った事が、今実践出来ているかは分かりません。新潟の地で仕事をするようになり日本酒を飲む機会が多くなり、日本酒を飲むとその時の事を思い出します。これから先も今できる事は今実践し、悔いを残さないようにしていきたいと思います。

仕事上多くの人に出会い沢山の違う考え方を学びその事により自分の「仕事感」が変わっていきました。今管理職という立場になり自分が経験した多くの事を若い人たちに伝え、その中から自分にあった考え方を吸収して貰いたいと考えています。

自分の考えのほかに先人の経験を学ぶ事が先に進む為に重要な事だと思います。これからも沢山の事を学び沢山の事を教え悔いのない「仕事生活」を送っていかうと考えています。